還御洛陽、○又見百練抄

〔大御記〕寛治五年十月一日、今日上皇、○白河於鳥羽御乘船、遷御大井河、覽瀧、深更還御於六條院、被講和歌、以落葉滿水爲題、無序者、

〔百練抄五鳥羽〕永久三年九月廿一日、上皇○白河御幸宇縣富家○藤原忠實別業、樂山水之興、遊興絶常篇有勸賞、○又見十三代要略

〔續世繼四宇治の川瀨〕後の二條殿○藤原師通の御つぎには、ちかくふけ殿○藤原忠實とておはしまし、○中略はじめは宇治のかはせなみをづかにて、白河の水へだてなくおはしまし、かば、ふけ殿つくり給て、院○白河わたらせ給けるに、宇治川にあそびのふね、うたうたひて、なみにうかびなどして、いとおもしろくあそばせ給けり、盛定といひしをとこ、うたうたひ、その時こうたうなどいひしふねにのりぐして、うたつかうまつりけるとかや、そのたび人々に歌よませさせ給はざりけるをぞ、くちをしくなど申人もありける、かやうの所にわたらせ給て、なにとなき御あそびも、ふるきあとにもにぬ御心なるべし、

〔百練抄六崇德〕天治元年二月十日、兩院○白河、鳥羽、臨幸白河邊、歷覽郊外深雪、內大臣○源有仁以下、騎馬前駈、新院於白河殿、騎馬、渡御法勝寺、爲希代之壯觀、

〔神皇正統記鳥羽〕鳥羽院、○中略天下を治め給ふ事十六年、太子にゆづりて尊號あり、白河代をしらせ給ひしかば、新院とて、所々の御幸にも、おなじ御車にてありき、雪見の御幸の日、御烏帽子直衣にふかぐつをめし、御馬にて本院○白河の御車のさきにまし〳〵ける、世にめづらかなる事なれば、こぞりてみ奉りき、むかし弘仁の太上皇、○嵯峨嵯峨の院にうつらせ給ひし日にや、御馬にて都より出させまして、宮城の內をもとほらせ給へりと云事見え侍りし、かやうの例にやありけん、

〔百練抄六崇德〕天治元年閏二月十二日、兩院○白河、鳥羽、臨幸法勝寺、覽春花、太政大臣○源雅實攝政○藤原忠通以